

平成 26 年度三番瀬自然環境調査(案)

1 底生生物及び底質環境調査

同調査は三番瀬の底生生物（マクロベントス）の生息状態、底質及び水質等の現況把握、過去に実施した調査（昭和 62～平成 2, 平成 5～8, 14, 18 年度）との比較を目的とする。

また、青潮が発生した場合に、それらが三番瀬の底生生物に与える影響を調査する。

(1) 底生生物・底質環境調査

調査時期：春（5 月）、夏（7～8 月）、青潮発生時（8～10 月）

調査内容：各回 38 地点で海底土表層を採取し、底生生物の種別個体数、湿重量、貝の殻長計測、土の粒度組成、酸化還元電位、強熱減量（粒度組成、強熱減量は春のみ）の状況を調査する。

なお、調査地点は昭和 62 年度から平成 18 年度まで継続して調査されている 38 地点を選択した。

(2) 水質調査

調査時期：春（5 月）、夏（7～8 月）

調査内容：三番瀬内外海域 11 地点で海水を採水し、水質及び動物プランクトン（二枚貝幼生）の状況を調査する。

(3) 干出域生物生息状況調査

調査時期：6 月の干潮時

調査内容：干潟表面 7 地点でみられるカニ類等の生息状況を目視調査する。

(4) 水環境モニタリング

調査時期：7 月中旬から 10 月中旬

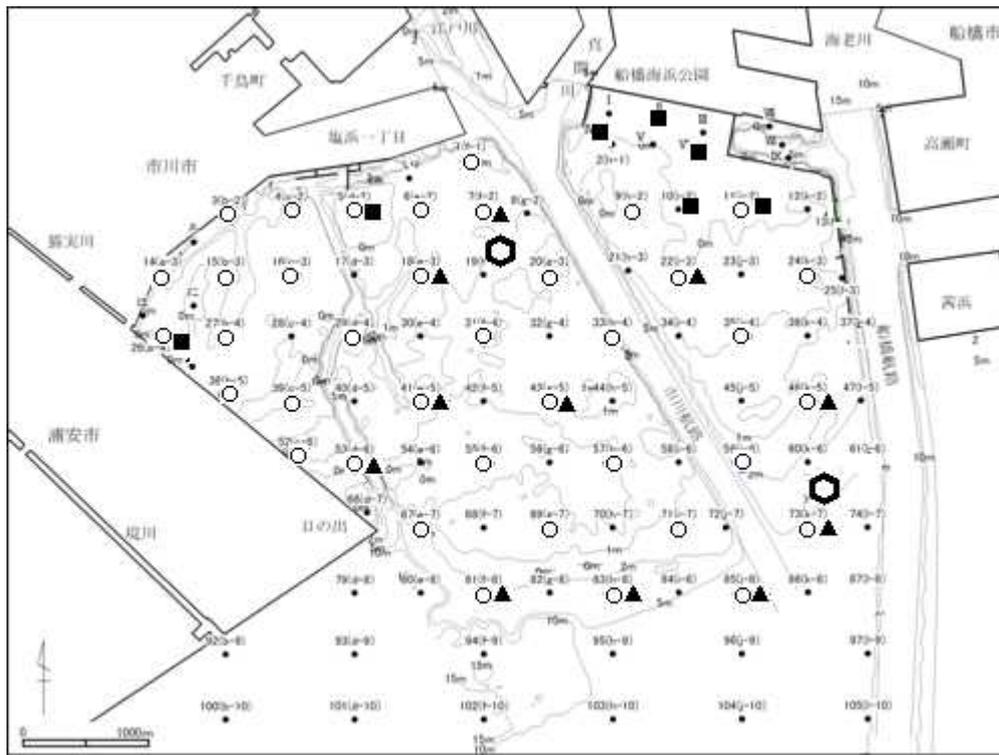
調査内容：三番瀬 2 地点に水質の自動計測機を設置し、水温、塩分、濁度、クロロフィル、溶存酸素、流向・流速について連続して計測し、主に三番瀬の貧酸素水塊（青潮）の発生状況を確認する。

(5) 解析・考察

底生生物（マクロベントス）の生息量、分布、貝類の殻長組成、底質環境及び水質等が過去の調査時から変化しているかどうかを比較し、変化が認められた場合には、その原因を考察する。

また、水環境モニタリングデータから、1 時間ごとの観測データを作成し、調査期間内に発生した貧酸素水塊の発生状況と経過を把握するとともに、貧酸素水塊の発生による底生生物への影響について考察する。

底質・底生生物調査地点



(注) 数字は水深 [A, P, [m]] を示す。

- ：底生生物・底質環境調査地点（38 地点）
- ▲：水質調査地点（11 地点）
- ：干出域生物生息状況調査予定地点（7 地点）
- ⬡：水環境モニタリング予定地点（2 地点）

2 三番瀬鳥類経年調査

同調査は三番瀬海域及び周辺地域の鳥類の飛来状況を、年間を通じて定期的に飛来数を計測することによって、詳細に把握することを目的とする。

(1) 調査方法

三番瀬及び谷津干潟を対象として、以下のとおり調査を実施する。

① ラインセンサス法

調査地点の中に定められた特定ルート上を比較的ゆっくりとした一定の速度で歩き、望遠鏡又は双眼鏡を用いてルートの両側（陸上では50m、干潟～海上では約1.5km～2km）を調査する。

② 定点調査法

調査範囲を広く見渡すことのできる定点から、望遠鏡又は双眼鏡を用いて可視範囲内を調査する。

なお、スズガモについては、正確な個体数を把握するため、11月から3月まで月2日、三番瀬海域3地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）において、同一日、同一時刻に一斉カウントを行う。

(2) 調査項目

鳥類の種別飛来数

(3) 調査場所

三番瀬海域3地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）及び谷津干潟（別図参照）
※行徳湿地については、別途委託している行徳野鳥観察舎鳥類調査結果によるものとする。

(4) 調査期間

平成26年4月～27年3月（月2回調査）

三番瀬鳥類経年調査対象区域図

